



第27回総会学術大会を終えて

第27回日本核医学技術学会総会学術大会大会長 菅 豊

超大型の台風が接近、最悪の気象条件の下での開催となりました。にもかかわらず多数の方々（636名、正会員：421人、準会員：13人、非会員：140人、学生：30人、招待：32人（海外招待+名誉会員））に御参加戴き有り難うございました。実行委員一同感謝致しております。

今回で単独開催としては最後（？）になり、次回からは核医学会との合同開催として5年間施行されます。その節目にあたる第27回大会を盛会に致すべく実行委員一同奮闘して参りました。

大会テーマには、基本第一の思いから「一」をメインテーマとし、核医学の基本を認識・研鑽致すべく基礎講座を企画致しました。また、核医学の将来を担っていただけるであろう学生諸君への啓蒙としての学生限定講習会（213人）、学生教育の最前線で御健闘戴いています先生方による核医学技師教育の現状・問題点等討論戴いたシンポジウム、今後の核医学技師の育成に役立つものと思います。

市民公開講座には461名の参加を見ましたが、天候の影響か残念ながら一般市民の参加は今ひとつでありました（約60名）。まだまだ市民への核医学の浸透は行き届いておらず、今後も啓蒙運動を続ける必要性を感じた次第です。

発表演題数は、100演題と多数の発表を戴きました。内容も吟味されたものが多く、今回企画致しました大会長推薦演題の選考作業は難航致しました。最終的には6演題を推薦させて戴きました。発表戴きました先生方には、感謝致すとともに今後一層のご発展を祈念致します。

懇親会では、大阪市の關市長を始め多数の方々のご臨席を賜り感謝申し上げます。大阪の夏と言えば天神祭、その中でも花形の天神講の皆様による獅子舞、傘踊り、四竹踊りをご堪能戴けたものと思います。獅子舞による四方固めの御陰か台風も大阪を避けた様でした。

今大会に会員の半数近い諸氏の参加を得ましたことは、今後の核医学技術の発展に、光明を見る思いです。今後とも、基本を忘れず、確固たる核医学技術の構築に邁進いただければと願っております。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたり、多大なるご尽力を賜りました関係者・諸団体の皆様に深甚の謝意を申し上げます。